

## よく知ることが大切

### 小 四

「バレエを習っているの。男の子なのに。」

友達と習い事の話になって、ぼくがバレエを習っていると言うと、必ずと言っていいほど、そう言われます。きっと、友達のバレエのイメージは、女の人がひらひらした衣しように着て、回転したりジャンプをしたりするだけなのでしよう。だから、ぼくはいろいろな友達からそう言われたとき、「バレエは女の人だけじゃないんだよ。男の人もやっているんだよ。」と教えています。すると、友達は、

「そうなの。知らなかった。」とおどろき、そこから「男の子なのに」とは言わなくなります。

本当にそうなのです。世界三大バレエの「ねむれる森の美女」や、「くるみわり人形」、「白鳥の湖」には、必ず王子様がじゅん主役で登場するし、王家の家来や町人役にも、男の人はたくさん出てきます。また、「海ぞく」という作品には、海ぞくをえんじる男の人がたくさんいて、ダイナミックにおどるところが見所の一つでもあります。ぼくの親せきは、友達より先に、ぼくがバレエを習っていることを知って、やはり、「男の子なのにバレエを習っているの。」

と言いました。そう言われて、ぼくは、心の中がもやもやして、いい気持ちがありませんでした。でも、バレエのことをよく知ってもらいたくて、ぼくがおどっているところを見てもらいたくて、発表会にしよう待しました。

そ父やそ母、おばやいとこたちは、ぼくが大きなぶ台の上で、くるみわり人形のロシアのおどりをおどっているところを見て、

「かっこよかったよ。とてもよかった。バレエの見方が変わったよ。」

と言ってくれました。その言葉を聞いて、ぼくは、ぼくのおどりがかっこよかったとほめられたのはもちろんうれしかったけれど、バレエは男の人でも、男の人でも女の人もやることを知ってもらえたこと

が、本当にうれしかったです。そして、ぼくは気付きました。バレエのことをよく知ってもらえれば、「男の子なのに」なんて言われなくなる。

きつと、ぼくの友達も、バレエのことをよく知っていれば、「男の子なのに」なんて言わなかったでしょう。知らないから、「男の子なのにどうして」と思っただけなのです。決して悪気があったわけではないと思います。

でも、「男なのに」「女なのに」という言葉は、気を付けないと差別につながってしまいます。男だから、女だからやってはいけない、ということはないのです。野球もサッカーも、ほ育しもかんごしも、指き者もすししよく人も、男の人でも女の人もやっていいので

す。

もし、「男なのに」「女なのに」と思うことがあったら、まずは、そのことをよく知ることが大切です。よく知れば、「男なのに」「女なのに」と思わなくなるはずですから。